

Ⅱ 調査結果の概要

【発育状態】

1. 身長

(1) 平成27年度の身長（沖縄県平均値。以下同じ。）は、男子では10歳、及び12歳～14歳の各年齢で前年度より高くなっている。

女子は、8歳及び11歳で前年度より高くなっている。（表1）

(2) 平成27年度の身長を30年前の昭和60年度（親の世代）と比較すると、最も伸びの大きい年齢は男子では12歳で、親の世代より2.7cm高くなっている。

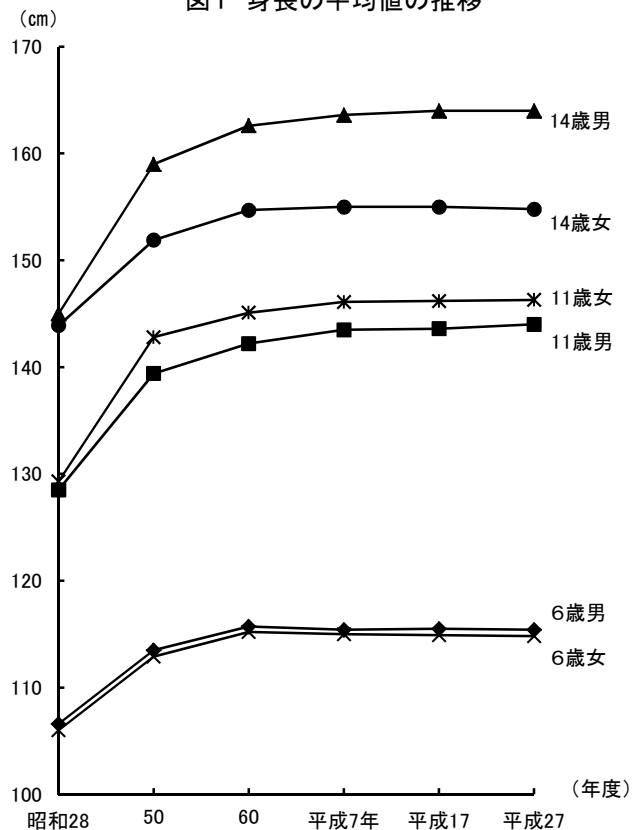
女子では11歳で、親の世代より1.2cm高くなっている。（表1）

(3) 性別では、年齢が進むにつれて男女の格差が大きくなっている。特に14歳の平均値の差が大きい。（図1）

表1 年齢別 身長の平均値

区分		平成27年度 A	平成26年度	昭和60年度 B(親の世代)	差 A-B		
男	小学校	6歳	115.4	115.4	115.7	-0.3	
		7歳	121.2	121.3	121.1	0.1	
		8歳	126.8	126.9	126.5	0.3	
		9歳	132.2	132.3	131.5	0.7	
		10歳	137.7	137.6	136.7	1.0	
	中学校	11歳	144.0	144.2	142.2	1.8	
		12歳	152.0	151.8	149.3	2.7	
		13歳	159.0	158.9	157.1	1.9	
		14歳	164.0	163.9	162.6	1.4	
		女	小学校	6歳	114.8	114.8	115.2
	7歳			120.7	120.7	120.6	0.1
	8歳			126.6	126.4	126.2	0.4
	9歳			132.8	132.9	132.0	0.8
	10歳			139.8	139.8	138.8	1.0
中学校	11歳		146.3	146.2	145.1	1.2	
	12歳		151.0	151.0	150.1	0.9	
	13歳		153.6	153.6	153.3	0.3	
	14歳		154.8	154.9	154.7	0.1	

図1 身長の平均値の推移



(注) 1. 年齢は、各年4月1日現在の満年齢である。以下の各表において同じ。

2. 下線の部分は、調査実施以来最高を示す。以下の各表において同じ。

(4) 14歳（平成12年度生まれ）の年間発育量を見ると、男子では11歳、女子では9歳時に最大の発育量を示している。最大の発育量を示す年齢は、女子の方が男子に比べ、2歳早くなっている。

また、この発育量を30年前の昭和45年度生まれ（親の世代）と比較すると、男子は発育量が最大となる時期が、親の世代よりも1歳早くなっており、6歳、10歳、11歳で親の世代の発育量を上回っている。

女子では発育量が最大となる時期は、親の世代よりも1歳早くなっており、6歳、8歳、9歳で親の世代の発育量を上回っている。（図2）

(5) 沖縄県の身長を全国（標本調査）と比較すると、男女とも全ての年齢で全国を下回っている。（図3）

図2 平成12年生まれと昭和45年生まれの者の年間発育量の比較(身長)

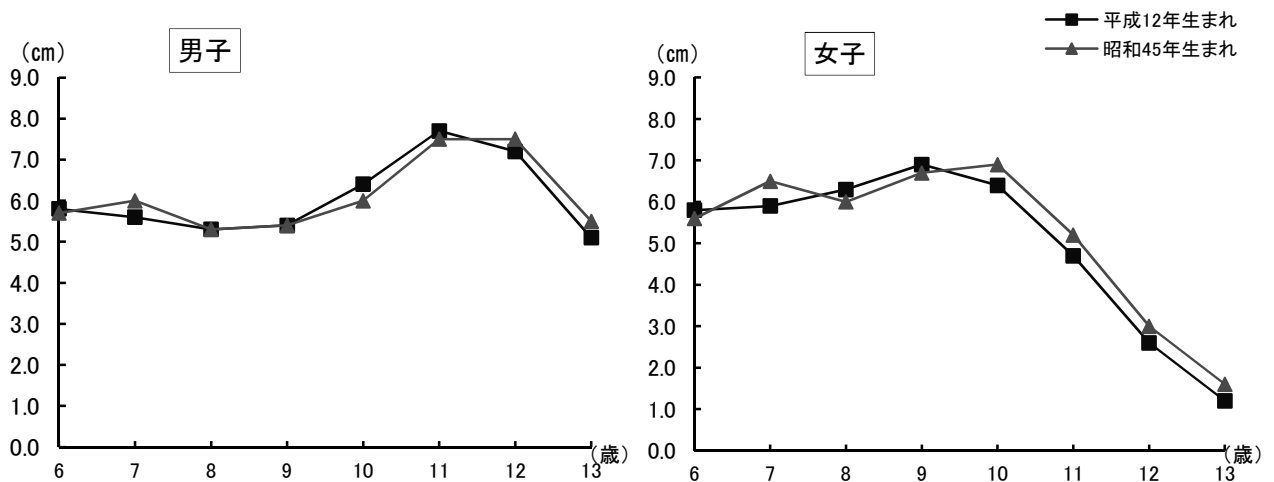
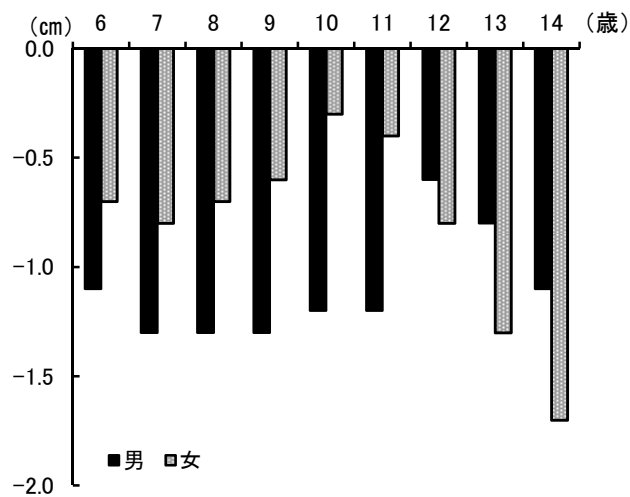


図3 身長の全国との差(平成26年度)



2. 体重

(1) 平成27年度の体重（沖縄県平均値。以下同じ。）は、男子では10歳及び13歳が前年度より増加し、6歳～8歳、11歳及び14歳で前年度の同年齢より減少している。

女子は、11歳で前年度より増加し、7歳、9歳、10歳及び13歳で前年度の同年齢より減少している。

(2) 平成27年度の体重を30年前の昭和60年度（親の世代）と比較すると、最も差がある年齢は、男子では12歳で、親の世代より2.3kg重くなっている。

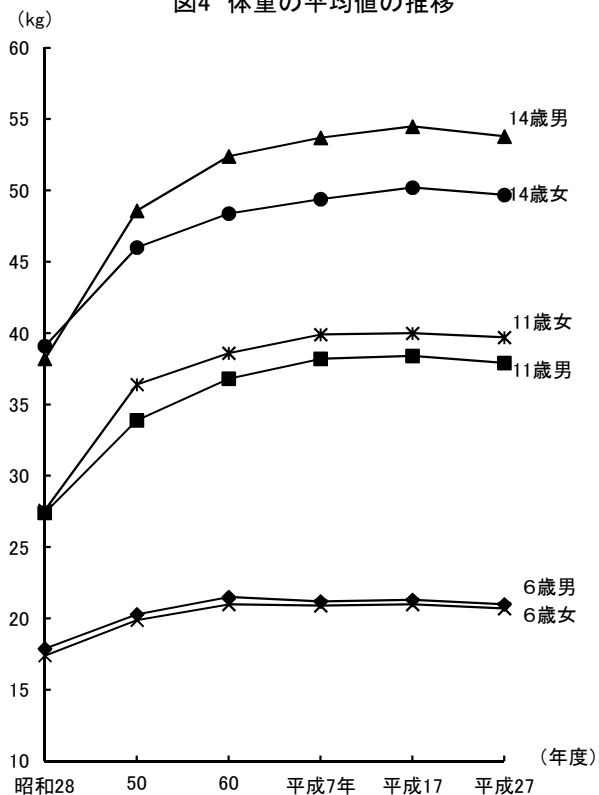
また、女子では14歳で親の世代より1.3kg重くなっている。

(3) 性別では、身長同様年齢が進むにつれて、男女の格差が大きくなっている。（図4）

表2 年齢別 体重の平均値

区分		平成27年度 A	平成26年度	昭和60年度 B(親の世代)	差 A-B		
男	小学校	6歳	21.0	21.1	21.5	-0.5	
		7歳	23.6	23.7	23.9	-0.3	
		8歳	26.7	26.8	26.6	0.1	
		9歳	30.1	30.1	29.6	0.5	
		10歳	33.7	33.6	33.0	0.7	
	中学校	11歳	37.9	38.2	36.8	1.1	
		12歳	44.1	44.1	41.8	2.3	
		13歳	49.8	49.1	47.6	2.2	
	中学校	14歳	53.8	53.9	52.4	1.4	
		小学校	6歳	20.7	20.7	21.0	-0.3
			7歳	23.3	23.4	23.4	-0.1
			8歳	26.4	26.4	26.2	0.2
			9歳	30.0	30.1	29.6	0.4
	10歳		34.5	34.7	34.0	0.5	
中学校	11歳	39.7	39.6	38.6	1.1		
	12歳	44.3	44.3	43.3	1.0		
	13歳	47.2	47.6	46.6	0.6		
	14歳	49.7	49.7	48.4	1.3		

図4 体重の平均値の推移



(4) 14歳（平成12年度生まれ）の年間発育量をみると、男子では11歳、女子では10歳時に最大の発育量を示している。最大の発育量を示す年齢は、女子の方が男子に比べ、1歳早くなっている。

また、この発育量を30年前の昭和45年度生まれ（親の世代）と比較すると、男子は発育量が最大となる時期が、親の世代と同じで、6歳、8歳～11歳で親の世代の発育量を上回っている。

女子では発育量が最大となる時期は、親の世代よりも1歳早く、6歳、8歳、9歳で親の世代の発育量を上回っている。（図5）

(5) 沖縄県の体重を全国（標本調査）と比較すると、男子は9歳では差がないが、6歳～8歳、10歳、11歳及び14歳で全国を下回り、12歳及び13歳では全国を上回っている。

女子では、8歳では差がないが、6歳、7歳、13歳及び14歳は全国を下回っており、9歳～12歳では全国を上回っている。（図6）

図5 平成12年度生まれと昭和45年度生まれの者の年間発育量の比較(体重)

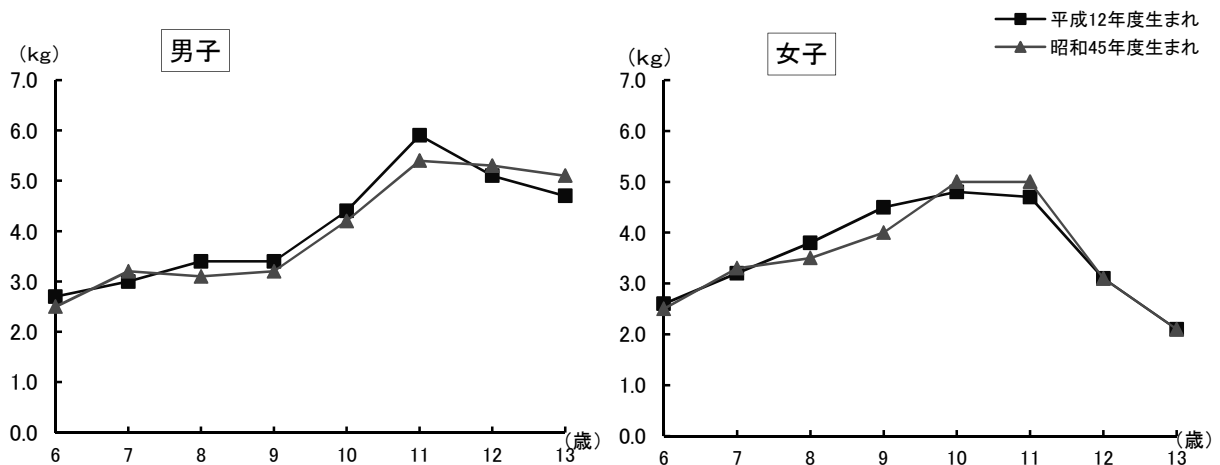
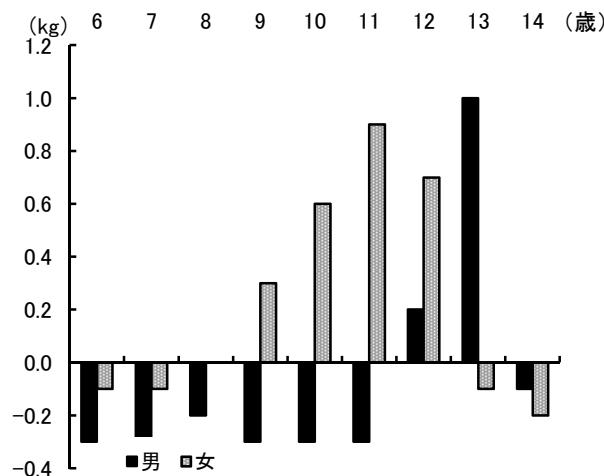


図6 体重の全国との差(平成26年度)



3. 座高

(1) 平成27年度の男子の座高（沖縄県平均値。以下同じ。）は、7歳～9歳及び12歳は前年度と同じであり、6歳及び11歳は前年度より低く、10歳、13歳及び14歳は前年度より高くなっている。

女子では6歳、7歳、10歳、12歳は前年度と同じであり、14歳は前年度より低く、8歳9歳、11歳及び13歳は前年度より高くなっている。

(2) 平成27年度の座高を親の世代と比較すると、最も差がある年齢は、男子は6歳で0.9cm低く、12歳で0.9cm高くなっている。

女子では、6歳で親の世代より0.9cm低くなっている。

表3 年齢別 座高の平均値

(cm)

区分		平成27年度 A	平成26年度	昭和60年度 B(親の世代)	差 A-B	
男	小学校	6歳	64.3	64.4	65.2	-0.9
		7歳	67.1	67.1	67.5	-0.4
		8歳	69.6	69.6	69.9	-0.3
		9歳	71.9	71.9	72.2	-0.3
		10歳	74.3	74.2	74.4	-0.1
		11歳	77.0	77.1	76.9	0.1
	中学校	12歳	81.1	81.1	80.2	0.9
		13歳	84.8	84.7	84.2	0.6
		14歳	87.9	87.6	87.3	0.6
	女	小学校	6歳	64.0	64.0	64.9
7歳			66.8	66.8	67.2	-0.4
8歳			69.6	69.5	69.8	-0.2
9歳			72.4	72.3	72.6	-0.2
10歳			75.7	75.7	76.0	-0.3
11歳			79.1	79.0	79.1	0.0
中学校		12歳	81.8	81.8	81.7	0.1
		13歳	83.3	83.2	<u>83.7</u>	-0.4
		14歳	84.1	84.2	84.4	-0.3

【健康状態】

1. 疾病・異常の被患率等別状況

疾病・異常を被患率等別にみると、「むし歯(う歯)」が最も高く、次いで「裸眼視力1.0未満の者」の順となっている。

表4 疾病・異常の被患率等

区 分	小学校	中学校	
90%以上			
80%以上90%未満			
70 ~ 80			
60 ~ 70	むし歯(う歯)(67.59)	むし歯(う歯)(66.49)	
50 ~ 60		裸眼視力1.0未満の者(51.2)	
40 ~ 50			
30 ~ 40	裸眼視力1.0未満の者(36.53)		
20 ~ 30			
10 ~ 20		鼻・副鼻腔疾患(12.12)	
1~10	8 ~ 10	鼻・副鼻腔疾患(9.05)	
	6 ~ 8		歯垢の状態(7.91) 歯肉の状態(6.52)
	4 ~ 6	歯垢の状態(4.55) 耳疾患(4.34)	歯列・咬合(5.0)
	2 ~ 4	歯列・咬合(3.11) 口腔咽喉頭疾患・異常(2.82) 歯肉の状態(2.58) その他の歯・口腔の疾病・異常(2.57) ぜん息(2.04)	耳疾患(3.43) その他の歯・口腔の疾病・異常(2.82) 口腔咽喉頭疾患・異常(2.44) ぜん息(2.4) 眼の疾病及び異常(2.14) 蛋白検出者(2.11)
	1 ~ 2	アトピー性皮膚炎(1.92) 寄生虫卵保有者(1.89) 栄養状態(1.86) その他の疾病・異常(1.52)	その他の疾病・異常(1.77) アトピー性皮膚炎(1.72) せき柱・胸郭(1.55) 栄養状態(1.28)
0.1~1	0.5 ~ 1	眼の疾病及び異常(0.93) せき柱・胸郭(0.9) その他の皮膚疾患(0.76) 蛋白検出の者(0.71) 難聴(0.68)	心臓疾患異常(0.52) 難聴(0.51)
	0.1 ~ 0.5	心臓疾患異常(0.41) 言語障害(0.16)	その他の皮膚疾患(0.4) 顎関節(0.35) 尿糖検出の者(0.24) 腎臓疾患(0.11)
0.1%未満	腎臓疾患(0.09) 顎関節(0.09) 尿糖検出の者(0.04) 結核(0.01)	言語障害(0.04) 結核(0.02)	

2. 被患率の全国との比較

疾病・異常の被患率が全国と比較して小中学校ともに高いのは、「裸眼視力0.3未満」「難聴」「口腔咽喉頭疾患・異常」「う歯」「歯垢の状態」「歯肉の状態」「栄養状態」「せき柱・胸郭」となっている。

「裸眼視力1.0未満」については、本県の小学校は全国より割合が高いが、中学校は低い傾向にある。小中学校ともに全国より低い被患率には、「眼の疾病及び異常」等がある。

表5 疾病・異常の被患率の全国との比較

(%)

区 分	小学校				中学校			
	男		女		男		女	
	沖縄	全国	沖縄	全国	沖縄	全国	沖縄	全国
裸眼視力1.0未満	32.94	27.80	40.27	34.29	46.20	49.44	56.50	59.00
1.0未満～0.7以上	11.09	10.30	12.64	11.98	8.71	12.03	8.99	11.30
0.7未満～0.3以上	11.01	10.29	13.47	12.82	14.18	16.19	15.48	18.01
0.3未満	10.84	7.21	14.16	9.48	23.30	21.22	32.03	29.69
眼の疾病及び異常	1.08	5.94	0.77	5.15	2.32	5.42	1.95	4.28
難聴	0.68	0.49	0.69	0.61	0.48	0.29	0.53	0.32
耳疾患	4.50	5.61	4.18	5.32	3.72	4.36	3.13	2.87
鼻・副鼻腔疾患	11.11	14.60	6.91	9.08	14.16	12.42	9.97	8.72
口腔咽喉頭疾患・異常	3.03	1.36	2.61	1.10	2.87	0.67	1.98	0.48
う歯	68.96	52.35	66.16	49.10	65.65	38.99	67.38	42.05
歯列・咬合	2.59	4.12	3.64	4.60	4.55	4.90	5.48	5.07
顎関節	0.08	0.09	0.09	0.13	0.20	0.25	0.50	0.38
歯垢の状態	5.09	3.56	3.98	2.67	9.39	6.07	6.36	3.88
歯肉の状態	2.82	2.20	2.32	1.68	7.48	5.55	5.51	3.66
結核	0.02	0.01	—	0.00	0.01	0.00	0.03	0.00
蛋白検出者	0.48	0.56	0.96	1.06	2.47	3.21	1.73	2.59
寄生虫卵保有者	2.29	0.14	1.47	0.09	—	…	—	…
栄養状態	2.15	1.78	1.54	1.18	1.45	1.05	1.09	0.83
せき柱・胸郭	0.89	0.53	0.90	0.56	1.14	0.72	1.70	1.33
アトピー性皮膚炎	2.03	3.84	1.80	3.18	1.73	2.99	1.72	2.42
心臓の疾病・異常	0.40	0.71	0.42	0.68	0.51	0.84	0.53	0.78
ぜん息	2.37	4.77	1.70	3.08	2.67	3.68	2.12	2.28
腎臓疾患	0.10	0.18	0.08	0.19	0.11	0.21	0.10	0.19
言語障害	0.21	0.50	0.11	0.26	0.04	0.10	0.03	0.06
その他の疾病・異常	1.60	3.38	1.43	2.37	1.31	3.00	2.26	2.76

(注) 1. 全国は文部科学省平成27年度学校保健統計調査速報(標本調査)による。

2. 「—」は該当がない場合

3. 「…」は調査対象とならなかった場合

3. 主な疾病・異常等の推移

(1) 裸眼視力1.0未満

平成27年度の「裸眼視力1.0未満」の者の割合は、前年度に比べると、小学校、中学校どちらも、男女ともに増加している。

この割合を年齢別（図8）にみると、男女とも年齢が進むにつれて高くなる傾向にある。

図7 裸眼視力1.0未満の者の推移

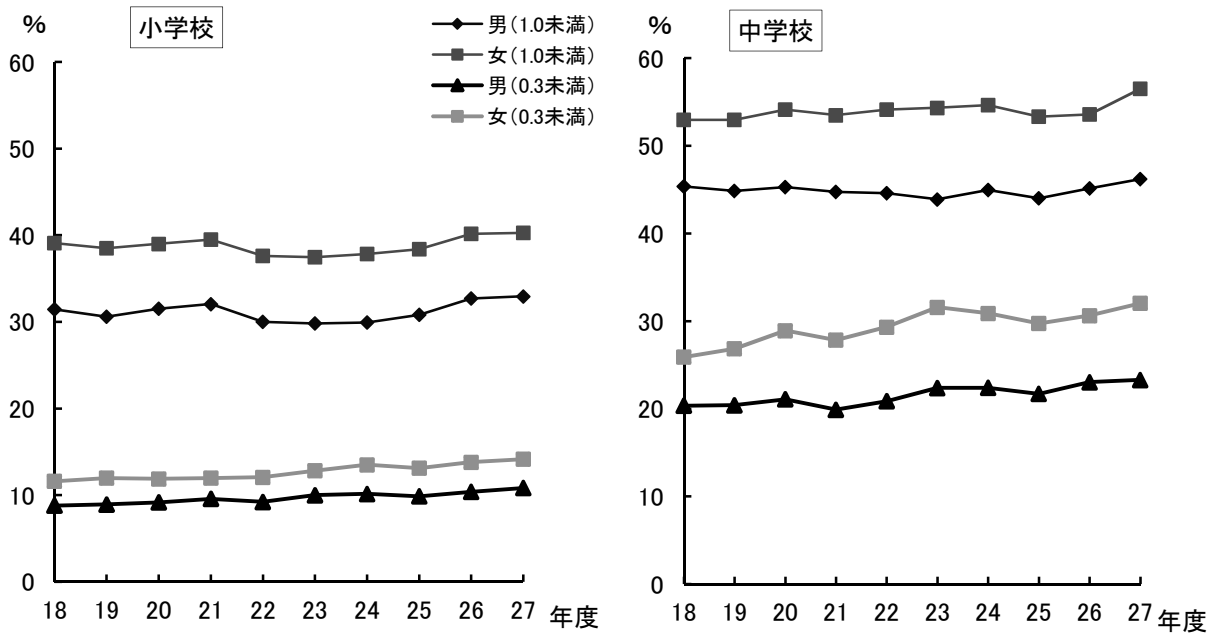
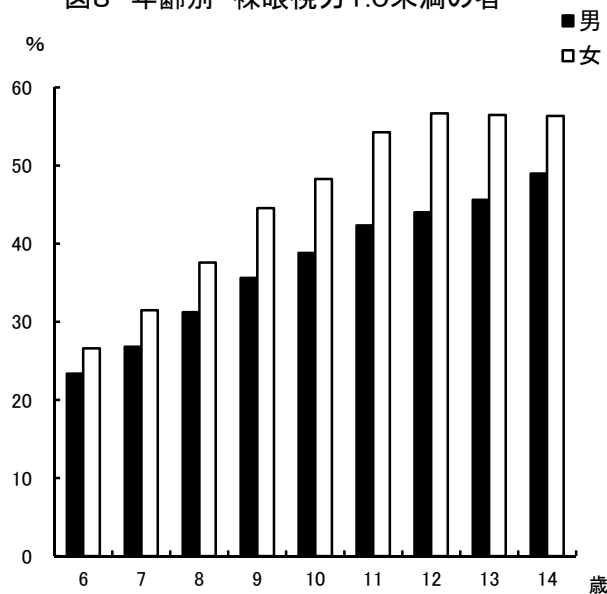


図8 年齢別 裸眼視力1.0未満の者



(2) う歯(むし歯)

平成27年度の「う歯(むし歯)」の被患率は、男女とも前年度より減少している。

「う歯(むし歯)」の被患率の推移をみると、この数年間は低下傾向にある。(表6)

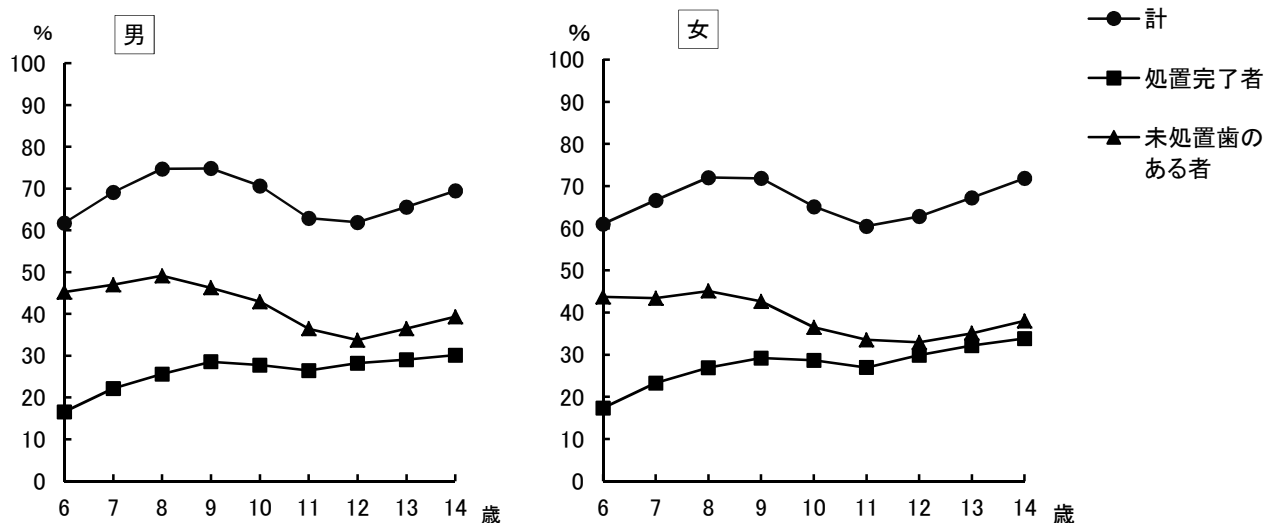
「う歯(むし歯)」の被患率を年齢別にみると、男子は9歳、女子は8歳が最も高く、男子が74.82%、女子は72.05%となっている。

表6 う歯(むし歯)の被患率(処置完了者等の割合)の推移

(%)

区 分			平成15年	平成18年	平成21年	平成24年	平成26年	平成27年
男	小学校	計	87.29	84.86	80.20	73.96	71.05	68.96
		処置完了者	27.53	27.03	28.70	27.69	25.36	24.45
		未処置歯のある者	59.76	57.82	51.50	46.27	45.70	44.51
	中学校	計	87.58	81.61	75.98	71.23	66.65	65.65
		処置完了者	31.37	28.58	30.99	31.08	29.09	29.14
		未処置歯のある者	56.20	53.02	44.99	40.14	37.56	36.52
女	小学校	計	86.49	83.20	78.11	71.38	68.48	66.16
		処置完了者	31.12	28.83	30.18	29.11	26.07	25.31
		未処置歯のある者	55.37	54.37	47.93	42.27	42.41	40.85
	中学校	計	89.90	84.33	79.58	74.46	69.45	67.38
		処置完了者	35.48	32.14	34.74	36.20	32.28	32.00
		未処置歯のある者	54.42	52.19	44.85	38.26	37.17	35.38

図9 むし歯(う歯)の処置完了者等の割合



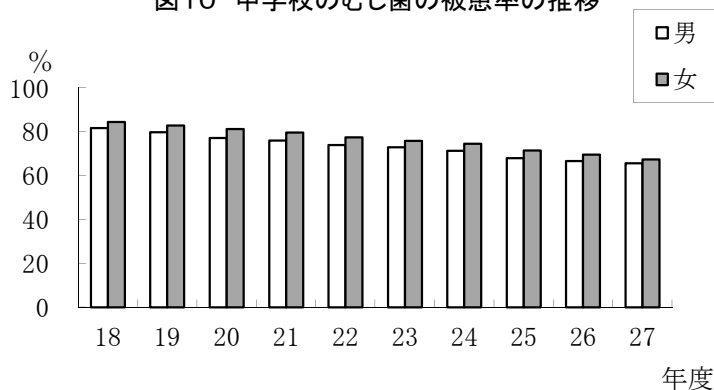
(3) 12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯（う歯）等数

12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯等（喪失歯及びむし歯）数をみると、「喪失歯数」は男子では前年度より減少、女子では横ばいしており、「むし歯数」は、男女とも減少傾向にある。

表7 12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯(う歯)等数

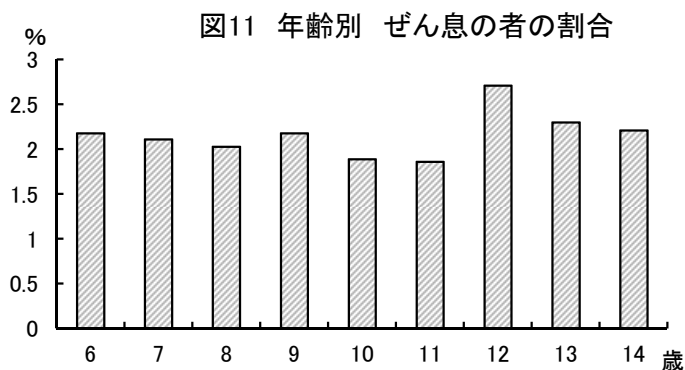
区 分		平成25	平成26	平成27	
男	計	2.13	2.07	1.95	
	喪失歯数	0.03	0.03	0.02	
	むし歯 (う歯)	計	2.10	2.04	1.92
		処置歯数	1.20	1.12	1.06
		未処置歯数	0.90	0.91	0.86
女	計	2.38	2.23	2.15	
	喪失歯数	0.04	0.03	0.03	
	むし歯 (う歯)	計	2.34	2.20	2.12
		処置歯数	1.43	1.29	1.19
		未処置歯数	0.91	0.91	0.93

図10 中学校のむし歯の被患率の推移



(4) ぜん息

平成27年度の「ぜん息」の被患率は、小学校2.04%、中学校2.41%となっている。年齢別にみると各年齢で2%前後となっており、12歳が2.71%と最も高くなっている。



年齢別	被患率
6	2.18
7	2.11
8	2.03
9	2.18
10	1.89
11	1.86
小学校平均	2.04
12	2.71
13	2.30
14	2.21
中学校平均	2.41

(5) 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

肥満傾向児の出現率は、男子では全国で15歳、17歳、沖縄では11歳～13歳、15歳17歳が10%を超えており、全国、沖縄ともに15歳が最も高くなっている。

また、女子では沖縄で12歳が10%を超えており、全国、沖縄ともに12歳が最も高い出現率となっている。

痩身傾向児の出現率は、男子では全国、沖縄ともに9歳～17歳で1%を超えており、全国、沖縄ともに11歳が最も高くなっている。

女子では全国で12歳、沖縄では10歳で最も高くなっている。(表8)

*都道府県別一覧表については、P70～P73参照

表8 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率 (%)

区 分	男				女				
	肥満傾向児		痩身傾向児		肥満傾向児		痩身傾向児		
	沖 縄	全 国	沖 縄	全 国	沖 縄	全 国	沖 縄	全 国	
幼稚園	5歳	2.00	2.34	0.93	0.40	2.27	2.24	0.32	0.47
	6歳	2.61	3.74	-	0.41	4.34	3.93	0.29	0.48
小学校	7歳	5.34	5.24	0.23	0.47	5.20	5.00	0.71	0.53
	8歳	6.42	6.70	0.20	0.79	8.22	6.31	2.08	0.98
	9歳	7.98	8.93	1.51	1.60	8.02	6.99	1.03	2.02
	10歳	9.88	9.77	1.51	2.81	9.39	7.42	3.53	2.71
	11歳	11.44	9.87	2.99	3.18	9.58	7.92	1.66	2.97
中学校	12歳	10.03	9.87	2.12	2.72	12.06	8.36	2.50	4.33
	13歳	13.46	8.37	1.02	1.80	8.56	7.69	2.50	3.49
	14歳	8.08	7.94	1.93	1.72	7.96	7.14	1.99	2.93
高等学校	15歳	12.44	11.34	1.23	2.62	9.38	7.82	1.30	2.40
	16歳	7.56	9.21	1.30	2.18	6.37	7.48	3.51	1.96
	17歳	11.18	10.22	1.38	2.07	8.53	7.75	1.86	1.57

(注) 文部科学省平成27年度学校保健統計調査速報(標本調査)による。

※肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率について

文部科学省学校保健統計調査(標本調査)では、平成17年度までは、性別・年齢別に身長別平均体重を求め、その平均体重の120%以上の者を肥満傾向児、80%以下の者を痩身傾向児としていたが、平成18年度からは、性別・年齢別、身長別標準体重から肥満度を算出し、肥満度が20%以上の者を肥満傾向児、-20%以下の者を痩身傾向児としている。

肥満度の求め方は以下のとおりである。

肥満度(過体重度)

$$= \frac{[\text{実測体重 (kg)} - \text{身長別標準体重 (kg)}]}{\text{身長別標準体重 (kg)}} \times 100 (\%)$$

* 身長別標準体重 (kg) = a × 実測身長 (cm) - b

年 齢	男		女	
	a	b	a	b
5	0.386	23.699	0.377	22.750
6	0.461	32.382	0.458	32.079
7	0.513	38.878	0.508	38.367
8	0.592	48.804	0.561	45.006
9	0.687	61.390	0.652	56.992
10	0.752	70.461	0.730	68.091
11	0.782	75.106	0.803	78.846
12	0.783	75.642	0.796	76.934
13	0.815	81.348	0.655	54.234
14	0.832	83.695	0.594	43.264
15	0.766	70.989	0.560	37.002
16	0.656	51.822	0.578	39.057
17	0.672	53.642	0.598	42.339